

2023 年度 第 2 四半期 決算説明会 質疑応答要約

Q) P&S 事業の下期の売上・事業セグメント利益は、上期と比較して減少し、収益性が悪化する計画になっている。Q2 で中国の市況が悪化したとのことだが、下期にかけてさらに厳しくなるというとか。

A) 中国を中心に市況の回復には時間がかかるものの、さらに悪化するとは見ていない。
ただ、上期は製品本体の販売が低調だったため、下期は販促費・販管費をかけて挽回しようとしており、上期に比べて収益性が下がる見込み。

Q) P&S 事業の製品本体の市況感について、インク・レーザーに分けて説明してほしい。

A) 今年度は、インク・レーザーともにコロナ前の 2019 年度程度まで市況が回復すると見込んでいたが、上期の実績を見ると前年度と比較しても市況は冷え込んでいる。特に中国の市況が悪化しており、インクに比べ中国比率の高いレーザーにおいて影響をより大きく受けると見ている。

Q) P&S 事業の消耗品の見通しについて、前年度比でどのくらい伸長すると見ているか。

A) 前年度比では、ほぼフラットと想定している。
プリントレス化の影響を受け、1 台あたりのプリントボリュームは下がっているが、製品本体の使用期間が延びており、市場での稼働台数（MIF）は、想定ほど落ち込んでいない。それが消耗品の販売に寄与している。

Q) 産業機器事業について、業界全体のトレンドは下降局面にあるが、下期から来期に向けた市況の見通しは。

A) 日工会のトレンドは下降局面にあるが、ブラザーの受注は 4 月に底を打ち、そこから徐々に上昇している。ブラザーが注力している自動車・EV 向けの設備投資需要が戻りつつあると感じており、今後についても、期待を込めて上昇基調が続くと見ている。

Q) 産業機器の下期の受注水準はどのくらい回復するのか。

A) Q1、Q2 の受注の大幅減は、市況の悪化に加え、前年度 Q4 に価格対応をした際、ディーラーが駆け込みで発注をした分の反動減もあった。ディーラー側の在庫調整も進んでいることから、Q3 の受注は、上期ほど低い水準にはならないと見ている。

Q) P&H 事業について、下期の計画が強気だが、上期・下期とでモメンタムに違いがあるのか、あるいは、新製品投入などを予定しているのか。

A) 大きな新製品投入があるわけではなく、下期がセールスシーズンであるということ、またチャネルの在庫水準の改善が見込まれることから、上下バランスに違いが出ている。